

生駒市郷土資料館新設準備検討懇話会第9回会議録 (要点筆記)

- 1 開催日時 平成23年7月1日(金)午後1時～午後3時
- 2 開催場所 生駒市コミュニティセンター 会議室 206
- 3 出席者 (委員) 浦西会長 山本副会長 小林委員 樋口委員 吉田委員
西川委員 山田委員 臼井委員 神委員
(事務局) 長田生涯学習部長 西野生涯学習課長 今野生涯学習課長補佐
錦文化振興係長 浅井生涯学習課職員 伊田生涯学習課職員

欠席者 吉川委員

- 4 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数1名 伊木まり子

5 議題

会長あいさつ

- (1) 第8回会議録の承認について
- (2) 報告書(案)について
- (3) 新設資金収集の方策について

6 審議内容

- ・第8回会議録の承認について
訂正箇所 3箇所
訂正のうえ全員承認

浦西会長 事務局のほうから報告書(案)として委員の皆様を送ってもらっていると思うが、いよいよという感じになってきたので皆様方の思いが反映されるように検討していただけたらと思う。早速だが、生駒市郷土資料館新設検討報告(案)に目を通していただいて修正や追加の箇所があればご意見をいただきたい。

小林委員 19ページの「もちろん資料館を訪れて学習することが望ましく、その方法を探っていくことが」のあとに、「大切であるが、スペースの問題もあり、学校・学年単位での来館は難しい面もある。」と入れていただきたい。それと逆に「学年単位・100人以上が」からの4行分は削除してほしい。

神委員 小林先生に質問だが、1クラスはだいたい何人ぐらいか。

小林委員 40人までといったところである。

神委員 生駒市の場合は最大で40人ということか。

小林委員 低学年の場合はだいたい30人ぐらいである。

神委員 ではクラス単位で利用することになると、30・40人が入れる大きさでないと意味がないということとなる。クラスの中で、班というものがあるのか。

小林委員 それは各クラスのやり方によるが、だいたい4人ぐらいで学級に8班ぐらいある。

給食の当番や掃除の当番などに用いて、だいたい4・5人で1つの班としていることが多い。

神委員 課外学習の際に班で動く場合もあるのか。

小林委員 ありますが、それはたとえば社会見学などでどこかへ行かせてもらうときも、見学先の申し出で4つに分けてくださいということなら4つに分けるし、人数はそのときそのときで分けることができる。

神委員 こういう施設で重要なのは30～40人入っても見られるということか。

樋口委員 しかし学級だけで行くということは横の連携をはかるため、あまり無い。どうしても複数のクラスでの行動や、学年単位となることが多い。

神委員 1学年には何クラスくらいあるのが普通か。

樋口委員 各学校規模があるので、生駒市では小学校の場合、小さいところでも2クラス、多いところは5クラスくらいあると思う。中学校だと、1学年に2クラスから5・6クラスになる。

神委員 この資料館に5クラスも来たら大変である。

吉田委員 報告書を読み返してみると、大変いろいろなことが提案されているが、表現の問題で気になる部分がある。たとえば「提言にあたって」の4行目、「それらが他所に誇れるところ」、この部分は地域の市民が誇りとするもの、それはなにも他所と比較して誇りとするのではない。自分の持っているものを誇りとするればいわけである。だからたとえばそれらを誇りとする市民が多いということでもいいのではないか。我々自身が誇りとするだけでいい。何も東京や大阪、奈良市内と比較しなくていい。よって、これは言葉の表現だが「他所」ということはやめたほうがいいのか。それから細かく言えばたくさんあるが、もう1つは3ページの真ん中ぐらいに「それは徐々に積み重なった」とあるがこんなことは本当にあるのか。これは「団塊の世代の人々の退職によってライフスタイルを新たにした市民が出てきた。そして終の棲家としての生駒について知りたいというニーズが高まった。」と表現したほうが良い。もう1箇所、4ページの財政事情の2段落目の6行分は文章が切れていない。非常に読みづらいので1文を短く主語と述語をはっきりさせてほしい。

浦西会長 我々の意見を報告書として提出することについて、希望としては一読して理解しやすい文章という形でまとめていただけるとありがたい。最終的にもう一度、各委員に送っていただき朱を入れて返却という形をとる。たしかに今、吉田委員がおっしゃったようにこの文章は読んでいてわかりにくい。

吉田委員 市の財政事情のところは大事な部分である。

浦西会長 他にはいかがか。自分が提言した部分の文章化に関して大きく逸脱していないかどうか。多分発言された部分は今お目通しして頂いていると思うので、そこらあたりで付け足したいとか、こういうことじゃなかったとかもあると思うがいかがか。そういう気になる部分があれば遠慮なくどうぞ。報告書の体裁が第1章として「資料館新設までの経緯」ということで市当局の現状であるとか今までの市の資料館の有り様とか資料の現状とかそういう部分をまとめてもらっている。第2章から「資料

館新設の試み」ということで、我々がこの9回の話し合いの中で枕になる部分、それが資料館新設の試みということでまとめてもらっていると思う。登録有形文化財旧生駒町役場庁舎を資料館新設の拠点にするという形になっていると思う。様々な問題があったが、登録有形文化財の場所を郷土資料館という形で、現地も見てもらって様々な提案をしていただいた。そして第3章、旧生駒町役場の庁舎にどのような機能を持たせるのかということになる。そこで今回の生駒市のひとつの大きな考え方として、「市民参加の資料館を目指して」ということがあるので、第3章の副題に「市民参加の資料館を目指して」となっている。資料館の機能ということで目次の内容もそういう形になっているけれども、「収集保存」・「調査研究」そして「登録有形文化財（建造物）の活用」・「展示」。5節～7節がいろんな意見を提案させていただいた「体験学習」・「情報発信」・「市民参加」である。それと小学校の活用。これもうまくしないといけないが、そういう多くの市民が利用できるという資料館を目指したいという考え方がここに載っているのではないかと思う。第4章は新設した資料館の運営はどうあるべきか、ということについて意見を出していただいた。指定管理者制度の導入というところについては課題というものがあるので、問題ありと。だから課題という形で市の責任もしっかりしてほしいという部分を入れてもらっていると思う。第3節の運営資金、これは第1章の財政事情との絡み、あるいは資料館の運営の資金についてどうするかという部分が少し入っている。4節・5節は資料館の機能の市民参加の資料館ということを目指しているので、「ボランティアの育成や確保」、あるいは「みんなのためにみんなでつくる」というポリシーの具体的な提案や考え方を入らせていただいている。第5章としてはこの資料館の基本設計に対する意見を入れていただいている。前回資料館に寄せる夢として提言がありましたので、入れていただけたと思う。今まで8回その都度その都度、思うことを含めて事務局の方でこういう形でまとめていただいて、全体的にはまとまってきたかなと思う。この中で漏れている部分とかがないかどうかが一番気になる部分だと思う。そういう部分がないかということも含めてご意見いただけたらと思う。

吉田委員

ちょっとその前に1点だけ。これも表現の問題になるが最後の「まとめにかえて」という部分の、東日本大震災というのは未曾有の災害である。単に、災害対策というひとつの言葉で片付けてしまうには、あまりにも大きすぎる問題を我々人間は突きつけられた。ライフスタイルを変えてしまうような大変革を突きつけられたわけである。だから、もちろん環境・少子高齢化という問題があるということに加えて、東日本大震災の原子炉事故を、災害対策を含めた市民の安全を守る、そういうものを根底にしたということをして1行だけ加えてほしい。

浦西会長

この資料館が目指すのは市民の物理的な安全だけではなく、いろんな精神的なものも含めて、安全で安心できるという資料館であってほしい。

神委員

15ページに「4 備品・模型の整備」とあるが、模型も備品のひとつと考えれば、「展示備品の整備」というぐらいの表現がいいのではないか。たとえば映像や剥製などいろいろある。それらも展示備品と考える。そしてその下に、「企画性はなくても実物があることが～」とあるが「企画性はなくても」というネガティブな表現ではなく、実物がとにかく肝心であるということをお伝えしてほしい。その次に「優秀な展示品」とある。これは個人的な話だが、私は展示品という言い方が嫌いだ。ここは「貴重で脆弱な資料」と変えていただきたい。もう一つ好みの話になるが、7ページ目の真ん中に「これらを踏まえると～描いていく。」という文がある。しかし文面を見ただけでは、せっかく空間的なことを書いているのにイメージしにくい。この文章を書かれた方はそういう空間的なイメージを持っていると思うので、簡単な概念図を抑えていただければうれしいなと思う。私の好みの話でしたがいかがだっ

たか。

浦西会長 この報告書は市長が読むことになっているのか。教育長か。

事務局 教育長です。

浦西会長 概念図のようなものを入れていただければありがたい。ほかにはいかがか。繰り返すようだが、全体の目次の体裁は、こういう形で結構かと思う。文章が通じないところもあったと思うが、全体の報告の体裁は大体これでいこうと思う。もう一度校正の部分について皆様の英知をお借りして、修正をしていただければと思っているが、それでよろしいか。報告書を作って資料館まで立ち上げていこうという姿勢はやっぱり生駒市に自信があった立派なことだと思う。今までコンサルに投げていたのを、その方法をとらずに市民に少しでも資料館にアプローチしていく立場の人々が集まって、ここまで纏め上げた。そして資料館を作ろうという、こういう流れはやはり生駒市の人々も非常によいものであるな、と私自身思った。胸を張ってこの報告を市当局に提出したい、参加できてよかったと思っている。資料館の運営についてはしっかりしていかないといけない。

それとやはり一番気になる資料館の運営は、やっぱり報告書の中に残る。しかし、それは業者の人たちも含めていろんな意味で、資料館に勤める人々が自分たちのノウハウを有効に活用できる。そして資料館に勤めることが、指定管理者にしても直接直営にするにしても、非常に楽しく有意義に活動できる職場環境である。どこかになって5年経って次の業者に代わるとか、5年間培った学芸員がすぐに代わるとかがないように、運営のやり方にデリケートな部分があるが、安心感を持った運営をして頂ければと思う。他にはいかがでしょうか。最終的に報告書を教育長に提出することになるかと思うが、その件について事務局はどうすればよいか。事務局のほうで流れを教えてください。

事務局 今日いただいた修正点を反映し、最終版をお作りしまして、また皆様の元に郵送させていただきます。それをご覧頂いて文言や誤字など間違いがありましたら、事務局のほうにご一報いただけたらと思います。ある程度の期限を設定させていただいてご修正のご意見をいただくということでもまとめていきまして、会長と副会長と事務局のほうで検討させていただいて、その後完成いたしましたものを、会長と副会長が代表で教育長にご提出いただくということにされてはどうかと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。

浦西会長 事務局の話では、訂正箇所の最終確認を私と副会長で行い、もう次に集まるということはありませんので、それを見て報告書の最終判断をさせていただくという形になる。教育長に提出する際に、委員の先生方も一緒に来て参加されますか。みなさんの意見がまとまったものという形で私と副会長さんが提出という形にさせていただくかと思うがよろしいか。

他に事務局から前々回ぐらいの会議でちょっと話題になったかもしれないが、新設の資料館の資金の方策について、アイデアというものがもしあれば、ということが事務局からのひとつの思いでもあるようである。話題になったのはキャラクターを作ってそれを販売したらとかいろいろあったが、そういう資金集めのアイデアがあればお願いしたいと思う。

神委員 質問だが、だいたいどれだけの工事予算と運営予算を想定しているのか。丸々工事費などを全部募金で集めるのか、これぐらい足りないからこれぐらい集めようと思っていると考えているのかわからないので教えてください。

- 西野課長 基本設計に、実施設計に関する予算額というのは議会でご承認いただいています。しかし具体的な建設工事の金額というのはまだ出ていません。市長のマニフェストの中では建設にかかるものというので1億5000万円というある程度の方向性は市民の皆様にも公表しており、これが前後するのかわかりませんが、今後、基金等の検討もするというので、できるだけたくさん集められれば、という思いはあります。
- 長田部長 たくさんいただけたらいいのですが、それよりも多くの市民の方々に、たとえわずかな金額でもいただければ、ということで、機運を盛り上げたいということもごさいます。特にまだ金額等は考えておりませんが、その辺よろしく願いいたします。
- 吉田委員 お金出してくださいと言って、誰が出すのだろう。そういうお金を出す人がいるのか不思議に思う。今、お金を出してくださいと伝えることによって機運を盛り上げるとおっしゃっていましたが、逆だと思ふ。前回あたりに、市民への周知を徹底するために広報に載せていますか、と質問をされた。「しています。2回やりました。」とおっしゃっていた。2回ぐらい広報に載せて、周知徹底ができるわけない。ああいうのは読んでいない。読んでも素通りだ。要するに周知徹底する、盛り上げるというのは、資料館を作るということをアピールするための大シンポジウムを開く。そういう大々的なことを1回やって、それでお金を出してほしいというのではなくて、そうした場合にその盛り上げ方がやっぱり半年ぐらい波状的に続けていく。そうしてなにかができてさうだという中で、たとえば大口の方もいらっしゃるかもしれない。そういう風に盛り上げる。一番初めに申し上げたが、やっぱりそういうお金を出そうという人を1万人くらい集めなさい。それが資料館を支える。生駒の資料館を楽しむ1万人クラブみたいなものを作る。そこから1年間に1000円出してください、それで1000万円である。最初からこんなことを言うのではなくて、ある程度盛り上がってきたときに、いかに市民がたくさん、1000円ぐらいなら出してやろう、という気持ちを持つか。人口10万人都市ということで1割くらいは参加すればいい。そういうのを考えなければ、「資料館を作ります。そしてお金が必要です。みなさんお金を出してください。」と、末端で話しても盛り上がらない。その点が逆じゃないかなと思ふ。
- 長田部長 私が申し上げたのは、「先にお金ください」と言っておられるような方法も一つの方法でございます。申し上げましたとおり、少しずつこれを話題にして買っただくことによってその金額が寄附になるというようなことでもございまして、同じようなことをおっしゃっていただいていたので、「お金をください」、というのは当然今の時代ですのになかなか難しいということでございまして、そんな案もいただきますということでお願いして、今回諮ってございます。今おっしゃっていただいたのも一つのいい方法と思ふので、また参考にもさせていただきたいと思っております。
- 浦西会長 今、吉田委員が言われたようにやっぱり、予算を使わずに多くを整備していこうとする流れにもなっているわけである。よって、解説されたこのタイムスケジュールとして、市民参加の博物館ができますよという、催し物を大々的にするかなどは事務局のほうに返事をしてもらったらいと思ふ。予算の枠以外で生駒を変える特別会員とかあるいは個人の友の会とか、そういう組織をつくり、魅力ある芸術館・博物館を運営する。それに参加されたらこういうメリットがありますよ、というようななかたちで会報を送ったり、催し物があるときには重点的に案内を差し上げたりさ

れているのを参考にして、プランを作っていく。そういう手立てを当然考えていけないといけない。今まででいうと友の会というような形である。他にもっといいアイデアがあればいいが、単純にお金くださいというだけでは出してくれない時代である。1年間の生活スタイルの中で、ここへ4回ぐらい来て、勉強して、生駒を知ろうと思えば、この会に入っておけば少しは安く割引になるし、優先的に聞けるといような魅力ある運営ができれば会員が増える可能性がある。もちろん魅力が無ければ、1年2年集めても3年から皆やめてしまうということになるので、当面はそれはやらないといけないかもしれない。今、事務局のほうからおっしゃった1億5000万円が値するのかわからないが、やっぱり生駒市にとってすごい決断だと思う。だから懇話会で報告したこと含めて、次に具体的な活動内容を提示して呼びかけていくという、そういう時期がもう来ているのだろうと思う。具体的な展示はこういう流れです、ここにあの一つのコンセプトのようなことが書いてあるが、具体的なもの無しに実施設計的なもの、そしてその中のこういう活動を行うという段階でやっていけないといけない。我々はそこまで議論できないが、一応基本的设计的なことを話し合い、その次にもう実施設計に関わる部分、予算的な面、あるいは活動の規模を含めて、事務局のほうで進めていけないといけない部分がある。

神委員

今の事務局の話を見ると、お金を集めるというのが目的じゃないようだ。市民の関係、市民の関心を深める、市民とつながりを持つということ。市民とのつながりのためにはPRが必要だ。もっと積極的にアピールするためにちょっとしたキャラクターを入れれば子どもさんでも喜ぶし、そんなものが当然あってもいいのかなと思う。シンポジウムをという話があったが、これは非常に全うな教育の王道のやり方だと思う。しかし、いきなり作るのではなくて、市民にどんな博物館が作りたいか、と尋ねる。最近三重県なんかでも子どもたちが作っている。子どもたちに「君たちはどんな博物館を作りたいの」と聞き、いろんな夢が出てくる。もちろん荒唐無稽なものでもいい。でもこういうことによって関わりができる。市民のみなさんが関心を持ってくれる。ですから、結構みんなに考えさせる場を与えて、その意見を聞かなきゃならないなんて、そんな難しく考えなくていい。それを聞いて、その中から「わたしお手伝いします」という方が何人か出てくれば、それはそれで非常に優良なことだと思う。だから、あんまり一部のほうが眉間にしわを寄せてお金を徴収するよりも、どうですかって機会を持ちながら進めていくというオープンな進め方が私はいいと思う。まず皆さんの意見を聞いて、なかにはなるほどいいねという意見を反映するのもあるでしょう。そしたらその意見を別のところから取り入れると全然違うと思う。だから密室ではなくもっとオープンにして、どんどんアピールしていく。そんなことまで降りてきてされたらどうかというのが私の思いである。広く考えればそういうことなのかと思う。いきなりだと、多分うまくいかない話だろうから、その中でもシンポジウムの横に募金箱があれば、「そういう趣旨だったらわたしも協力するわ」といった感じでもいいじゃないだろうか。そんなことを私は思う。

西川委員

自治会でも、よく市の施設の見学に出席してくれないか、ということがある。その中にこの資料館を入れていただければどうか。

神委員

オープンまでが大事なのではなくて、むしろできてからが大事である。できてからの良さもしっかり考えるわけであるから、運営の予算でも市民の協力が得られるように。たとえばある館においては、ある展示をしようと思ったらお金がいる。それがいいかどうかは別であるが、よっぽど見たい魅力的なものだったら、ということである。だから、見たい人にはそれなりに出していただいて、という面もあるのか

などと思う。その一方、図書館は無料なのに資料館はお金をとることが私の中でちょっと微妙な部分があり、むしろ無料にしてお金が払えるときはそういう仕組みであるというやり方のほうが市民寄りの開かれた資料館なのかなと思う。

西川委員 開館は 25 年度か。

長田部長 25 年度中という形では考えています。

西川委員 それ以前に完成はいつか。

長田部長 工事は 24 年度以降になると思います。やっぱりたくさん準備もありますので、その準備をしてから開館という形になります。中身がやっぱり必要ですので。

西川委員 完成から開館まで準備があると思うが、その間にその場所で取り組めるようなものも考える必要がある。

神委員 お役所のロビーの 1 階でも使って、こういうものができますよ、とプレ展示的なものを行う。期待感を醸成するというようなことである。最近よくお役所で「試行自治」ということばがある。試しにやってみたらまた別にやってみようという。結構柔軟に取り組めば、お金をかけてちょっと作って、評判が悪かったらどこが悪かったのか反省して直して、なにも一点豪華主義という時代でもないのだから。

浦西会長 たしかに生駒に住まわれている方、代々住んでいる方は生駒というところはどういうところか知りたいと同時に、新住民の人たちも生駒ってどんなところか知りたい方も多分多いのだろうと思う。そういう意味では、生駒の歴史・文化、古代・現代も含めて知ることができますよ、という形の呼びかけとか、誰にということ想定しながらこの資料館の機能を発信していくキーワードというのが、実施設計の段階でいくつか大事になってくる。

神委員 生駒のことがなんでもわかる資料館である。やっぱり引越ししてきたときにどういう土地かということがわかるからいっぱい行くと思う。

浦西会長 生駒の歴史とか郷土を勉強されていたり、活動されていたりする方とまったく一からやろうとしている方との交流の場もそこで生まれる。資料館・博物館というのは案外お金がかかって、専門家がいるところというイメージが今まで強すぎた。それを大きく変えたのが旭山動物園であり、非常に大成功した。今、毎週日曜日 NHK のラジオ第 2 放送で元館長の小菅さんがこの旭山動物園の立ち上げについていろいろ話されているが、ああいうのも参考になるかもしれない。見たい側・見せたい側、その中心にあるのが資料である。資料には資料自身が見せたい姿がある。そこは動物園だから、動物が見てほしいという姿があり、それをそのまま見せることによって人が感動するのだという展示方法を行っている。新しい資料館・博物館を運営していく人たちにとっては参考になる話をされているなど思いましたので少し紹介させてもらった。ですから、資料館も確率は 1 割かもしれないけれども、大ブレイクするかもしれない。キャラクターと名称を募集して、博物館を知らない子たちに爆発的に成功するかもしれない。だからいろんな不安もあるけれども半歩でも前進しておろすことが無い看板を掲げようという、それをしっかりやってほしい。我々これで終わりだから、無責任なことは言えないが、夢はやっぱりあって、大成功できればと、地元の人が一番協力してくれると思うので、そうすると大ブレイクするかもしれない。なにも堅苦しい話ばかりでなくて、ここからそういうこともや

らないといけないこともあるかもしれない。

神委員

仕掛けがいる。

浦西会長

仕掛けがやっぱり今の博物館に必要である。だから生駒市も良い人材も含めて、どう企画すれば、運営すればよいのかということも考えていかないといけない。これだけの人口と規模があり、空間はちょっと狭いかもしれないが、人口と規模も合う。友の会とかの関係は京都国立近代美術館とかが一生懸命やっているので、ノウハウを学んでこられたらいいと思う。京都は規模が違うが、大学などの関連で学生証を見せたら無料、大学から100万円か200万円くらい費用資金をいただくということもやっているみたいである。ここらだと奈良国立博物館もそうである。大学がお金を払って学生が無料で入場できる。それは国立だからできるわけですが、この生駒市でできるかどうか別にして、そういう真剣に国立がやりかけているという、国立がやりかけたら市町村あるいは県あたりはお金集めないといけない。忘れてはならないのは資料の保存と管理、あるいはその部分についての画期的な研究というのはもちろん忘れてはならない。旭山動物園の小菅館長が「大学とか研究所でもない、あるいは文化会館・図書館でもない、単なる娯楽施設でもない、協力的に配慮を持った空間が必要であって、そして博物館というのは唯一大学の研究機関、あるいは企業の活動の場所、図書館とか文献ばっかりのところでもない、単なるイベントをやるところでもない、資料と人が接触して、そこで何が生まれるかわからない。たとえば動物園では人に感動を与えたわけだが、そういう場所が博物館であるとすれば、博物館として可能性が無限にあるという発言をされていたので、全国の博物館の人たちもやっぱり無限の可能性を求めていかないといけない。まだまだがんばっていかないといけないのではないか。」というような話をされていた。そういうことをする時間はないのか。資料を研究するところは研究所とか大学とかでやればいい。それは一般の人は入れない。かつそれをなぜ必要なのか、なぜこんなことがあるのかということをお知らせする場所とか、驚かせる場所というのはそういう博物館的な資料のある場所しかないのだというような表現をしていた。

神委員

私は博物館が好きなのだが、そのきっかけは田舎の資料館へ行った時のことである。ケースの中に火縄銃が展示してあり、それを見ていたら、職員の方がやってきてスライドのガラスを開けて持たせてくれた。それがずいぶん重たかった。こんな重たいものを担いで戦に出たという重さもそうだし、火縄銃を持てたという感動もそうだし、すごく印象的だった。やっぱりモノの魅力ってそうだと思う。さっき動物の話があったが、モノの場合はそれが介在する人、たとえば今だったらガラスを開けて持たせてくれたそのおじさんがいたが、そういう人が間にいるだけで全然違う。きっとこの館が成功するかどうかというのは、単に設備だけではなくそういう人、運営する人たちがとても大きな要素になっていくと思う。とにかく地域に詳しい方々に何を聞いてもすぐ答えてくれるような方々にいっぱいいてほしい。なにかとこういうのはハードの世界になりがちである。指定管理になりますからというのではなくて、その指定管理も結構ちゃんと決めていかないといけないのではないか。体験を通して僕らは重要さというのを身にしみて感じた気がする。子どもたちにそういうきっかけ・感動をいっぱい与えていただけるような運営・体験が必要である。おそらくあの規模だから大した素晴らしいものを展示するのは難しいと思う。だけど、そこで働く人たちによってずいぶんそれが補えると思う。ですから先ほどおっしゃったようなブレイクするというのはあながち嘘でなくて、僕は確率が1パーセント以上あると思います。そういう可能性を追求したいと思います。みなさんは今このタイミング、この立場でそういう仕事されているのはとってもラッキーである。その一歩は責任重大である。ちなみにその館ができたならまた夢を語

る、こういう場があればいいなと思うので、またそういうシステムを考えていかれたらどうかと思う。館長にはどういう方がなって、どういう夢をお持ちの方で、というの聞いてみたいと思うが、とてもすごい仕事をしているという思いをみなさん自身がお持ちでいてほしいなと思う。

山本副会長

これは途中でやめられない。何代も何代も続いてもらわないといけない。生駒市民全部に今おっしゃったように1回2回の広報を流したって、だれも見えていないから、市民はほとんど知らない。だからそれをどのような宣伝をするかによって、生駒市民にある程度知られるように定期的に知らせる必要がある。そういう責任が生駒市民にも持っていただけるように考えておいてもらおうと、それがどんなことかは難しいけれども、自覚を持ってもらわないと保存できない。ただお金がほしいだけでは集まらない。もっとみんなが自発的に活動しないとイケないというふうに知っていただく。それをどういうふうに持っていくかというのが難しい問題である。宣伝というのは難しい。悪い宣伝というのはすぐにぱっとやるけど、新聞でもこういうことはなかなか出してもらえないだろうから昔は生駒新聞で細かいことまで市民に知れ渡ったがこのごろはそういったものがない。広報というのが一番効き目があるのか、どういうふうに宣伝してもらおうか、宣伝もいつまでも続くようにしてもらわないといけない。

吉田委員

新聞で言えば、新聞とは非常に薄情である。取材される側はこういう大した立派なものをこれだけやったという説明をする。これだけしゃべって、どれだけ載せてくれるのかと思えば、5行ぐらいしかない。もう何千とあるニュースの中からあのスペースに載せるわけだから全国紙になるととても短くなります。奈良新聞なんかは非常に地元を大事にしている。だからこれを継続的にやっていく場合、やっぱり奈良新聞とかそういうところとタイアップする。新聞社とタイアップすると自分のところの記事には大きく載せてくれる。もちろん他社のものはまったく無視します。いかに一生懸命新聞記者に話をしても彼らはそんなにまともに聞いていない。そういう意味では薄情だということである。

西野課長

委員の皆さんからいろんなご意見を頂戴しまして、先が明るくなったような感じがします。わたしたち事務局も気づかないこととか、たとえば友の会であるとかPR・広報・宣伝、子どもたちにどうやって知らせるかなどヒントを本当にたくさん頂戴しました。この会につきましては、今日がひとつの区切りという形になりますけれども、引き続き資料館の新設に向けてご支援していただけたらありがたいと思っております。やはりいろいろお話をうかがっていましたら、一番大きいのは人と人とのつながりが重要であると思えます。単に指定管理で委託するとかではなくて、生駒を愛するとか郷土を愛するとかそういう歴史文化を次世代につないでいくというのがこの資料館のひとつの夢かなというように思います。

浦西会長

いろんな意見を頂いて、こういう形で耳を傾けていただいて、参考にさせていただければ我々懇話会の者にとってはありがたい。時間が迫ってきましたので、一応今日の報告書のことと、基金の収集方策についての意見を我々懇話会の者で話し合いができたという風にさせてもらってこれで終わりたいと思っている。そのほかのことと事務局のほうから連絡することはありますか。もう一度この報告書のことだけ流れを説明してもらえますか。

事務局

今日の修正点とご意見をいただきましたところを反映して最終版を後日郵送させていただきます。そしてまたご覧頂いて、訂正等ございましたら、またご意見を頂戴したいと思います。その意見につきまして事務局と会長・副会長とで調整をさせ

ていただいて、完成させていただきます。そしてその後完成した報告書を、皆様方を代表して会長と副会長で教育長にご提出いただくという形でございます。懇話会の委員の任期はこの報告書が完成しますまで、検討協議が終了しますまで、ということになっていきますので、ご提出をしていただいた段階で、この会議につきましては終了させていただくということになりますので、あらかじめご了承ください。

浦西会長

他にはもうよろしいか。それでは以上でこの検討懇話会を閉会するが、最後となるので、長期間委員の皆さんには郷土資料館新設に大きな課題があったが様々なご意見をいただき、本当にありがとうございます。皆さん方のご尽力で報告書がほぼ完成したことについて、本当に心からお礼申し上げます。新しい資料館が建つということについて夢もあり、いろんな言いたい所もあった。小さな資料館ですけれども、ここを拠点として資料館の看板を挙げて、小さな灯火かもしれないが、それが大きな灯火になるよう、看板を外さないようにして、子どもたちを含めて資料館が懐かしい場所だということをお知らせするように育て上げていく。そういうことに関係できて良かったなと思っている。そのために9回のお忙しい中、様々な意見を頂いて感謝以外なものでもない。重ね重ねありがとうございます。これでこの懇話会が閉会させていただこうと思う。本当にありがとうございました。

事務局

事務局を代表しまして長田部長が皆様にお礼のごあいさつをいたします。

長田部長

本日はどうもありがとうございました。少しでもお礼の言葉を申し上げたいと思います。昨年の暑い7月に第1回の会合をさせていただき、本日まで9回にわたり、大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。懇話会でまとめたいただきました、報告書のご意見を参考にさせていただきながら、新しい資料館の建設に向けて務めてまいりたいと思います。先ほども申し上げましたように資料館の設置でございますが、今年度は基本設計を基に実施設計に入らせていただき、24年度に建設工事、その後に展示を行って、25年度以降になると思いますが、開設となります。開設後の運営につきましても貴重なご意見をいただき、市民の多くの皆さんに参加していただける、参加だけでなく入っていただける、市民参加の運営に取り組みたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。それから、委員の皆様在先ほどから、今日で最後だという言葉もいただいておりましたが、最後ではなくて、開設後におきましても足を運んでいただいて、ご協力いただきますようお願い申し上げます、簡単ではございますが、お礼とさせていただきますと思います。どうもありがとうございます。

事務局

以上で生駒市郷土資料館新設準備検討懇話会を閉会いたします。

・その他

今回いただいた修正点・意見を反映し、最終版を委員に郵送。再び修正点等確認いただき、あれば朱を入れて事務局に返却。会長・副会長・事務局で調整し、完成。完成版を教育長に提出の予定。

以上